

長野県植物研究会 50 周年記念誌

巻頭言

本会誌は長野県植物研究会の発足した翌年の 1968 年（昭和 43 年）5 月に第 1 号が刊行されていますので、本年第 50 号を迎えることになります。考えてみますと“半世紀”という長い時間の流れがあったことになり、感慨深く実に喜ばしいことであります。

発足の時、研究会の名、会誌の名を別々に議論したことが思い出されます。その結果“長野県の植物を研究する会”であり、その会の活動記録が“会誌”であるということに落ち着き、現在の会名、会誌名となったと記憶しております。

第 1 号の後記に当時幹事長（当時会長職は作られていなかった）であった清水建美先生がこんなことを記されています。“本会は、単なる同好会に止まらず、一方において定期的な勉強会をもち互いに全く自由に意見を述べあって・・・、他方において、会としての研究テーマをもち協力しながら資料を集積していくという方針で・・・。近い将来には、本会の消滅がないことを祈り、会員の方々の熱意と努力に期待したいと思う。”

まさにこの期待どおりに第 50 号まで継続できたことは、会員諸士の長野県の植物研究に対する熱意の賜物であろうと思います。第 1 号への執筆者は 9 名でしたが、そのうちの 6 名は既に故人となられています。

以来、10 年毎に記念誌を刊行して来ました。その詳細については記念誌第 40 号に述べられているので省略しますが、本会誌への特記すべきこととして、第 11 号より“国際登録誌”に昇格し ISSN 0385-9916 の番号をいただいたこと、また第 18 号より日本学術会議の審査をパスして“学術刊行物”の許可を得ることができたこと、その上に冊子の大きさも時代の流れの中で第 41 号より B5 版から A4 版へと変更し、外見上も学術雑誌としての姿を整えることができています。

本号には県外の方々からの特別寄稿をお願いし記念誌としての内容を充実させていただきました。お願いに当たりましては本研究会の主旨である“信州の植物を語ってほしい”という勝手なお願いをしましたところ、12 名ものの方々から貴重な論文をお寄せいただきました。本当に有難く心から感謝申し上げる次第であります。以上、長野県植物研究会の益々のご発展を祈りつつ“巻頭言”としたいと思います。

長野県植物研究会 会長 中山 洸（佐久市鍛冶屋 2017.2.14）